

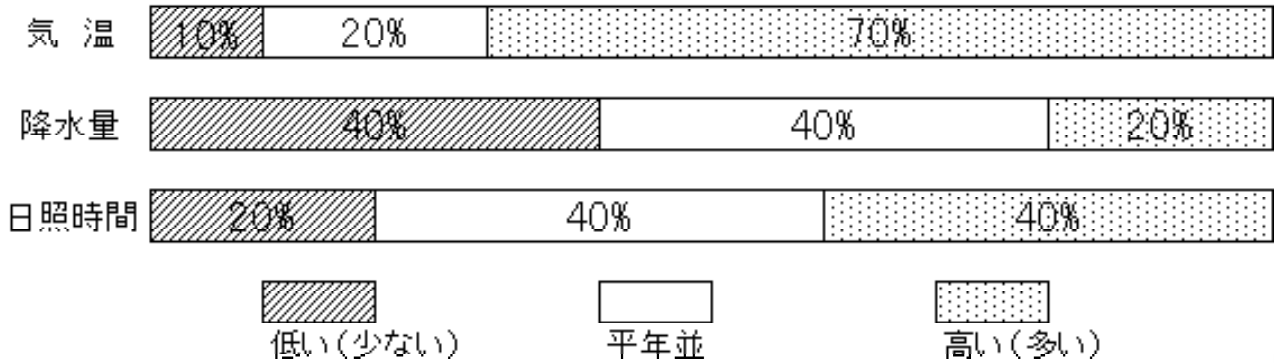
令和元年度 病虫害発生予察情報

発生予報第3号（6月）

令和元年5月31日
島根県

予報の概要			
区分	農作物名	病虫害名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	やや多い
		ニカメイチュウ	やや多い
		イネミズゾウムシ	平年並～やや多い
		セジロウンカ	やや多い
果樹	ナシ	黒斑病	少ない
		黒星病	やや少ない
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	平年並～やや多い
野菜	カキ	ハダニ類	平年並～やや多い
	タマネギ	カキクダアザミウマ	平年並
		ポトリフス属菌による葉枯れ	平年並
		べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	平年並

中国地方1か月予報(6月1日～6月30日・広島地方气象台5月30日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。

② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は14.9%（平年4.6%）、捕獲数は0.3頭/50株（平年0.09頭）と発生量は平年に比べてやや多い。

③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（平年1.3%）と低い。

④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は4月第5半旬と平年に比べてやや早い。5月第5半旬までの誘殺数は10頭(平年10.9頭)と平年並みである。
- ② フェロモントラップへの5月第5半旬までの誘殺数は14頭(平年61.1頭)と平年並みである。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は29頭(平年12.1頭)、フェロモントラップでの誘殺数は89頭(平年69.9頭)と平年に比べてやや多く、越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第1半旬と平年に比べてやや早い。第5半旬までの誘殺数は26頭(平年32.2頭)と平年並みである。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は10.6%(平年34.1%)、捕獲数は0.15頭/50株(平年0.76頭)と発生量は平年に比べてやや少ない。ただし、一部発生が多いほ場が認められる。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は150頭(平年86.1頭)と平年に比べてやや多く、今年の越冬量はやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
飛来時期 早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査において本県初発生を確認した。飛来時期は平年に比べて早く、発生ほ場率は8.51%(平年0.22%)、捕獲数は0.17頭/50株(平年0.01頭)と発生量は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.6%(平年1.9%)と、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月11日と平年並みである。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで越冬量は平年並みと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月16日と平年並みである。
- ②フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

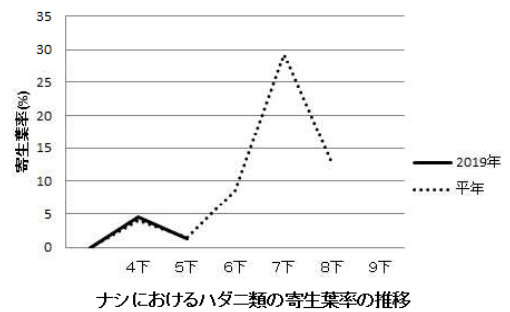
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ②5月下旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.2%（平年1.4%）と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ②5月15日の巡回調査では本種による巻葉被害が認められた。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生ほ場率8.7%（平年13.0%）、発病株率0.1%（平年0.3%）と平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生ほ場率56.0%（平成56.5%）、発病株率9.4%（平成14.1%）と平成に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生ほ場率39.1%（平成40.0%）、発病株率2.0%（平成3.3%）と平成並みである。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp